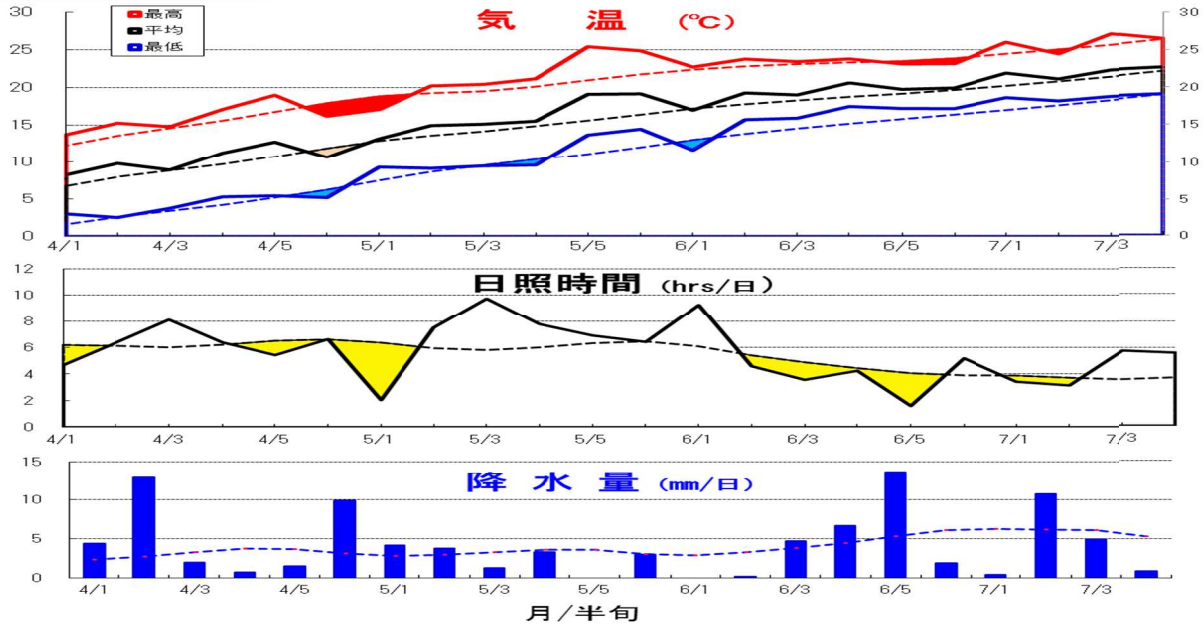


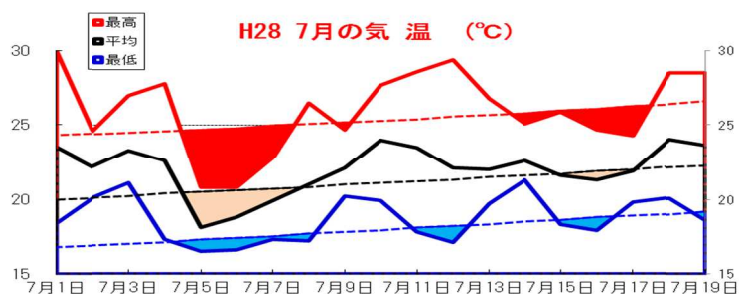
～出穂は8月3日頃（平年より2日早い）花水が必要～

1 気象経過



◆7月中旬からの気温経過を見ると、低温に関する警戒情報がだされたが、幼穂発育期間の低温は回避されそうである。

【21日から数日間は低温傾向であり地域により注意が必要】

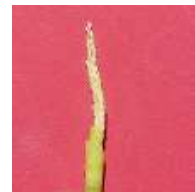


- ・依然として7月下旬までのまでの気温は、ほぼ平年並み～やや高温に経過している。
- ・分けつ期の6月はやや少照で、7月に入り並～やや多照傾向である。
- ・降水量は、6月上旬までは少雨傾向であるが、それ以降は断続的に降雨が続いている。

2 生育状況

〔7月20日在〕

- ・分けつ期（6月）の少照や気温が並～やや高温の影響により、茎数は7月始めの調査では平年を下回っており、現在でも平年より少なくなった。
- ・草丈が平年より並～やや長めで、茎数はやや少ない傾向は、東北各県や北陸でも同様のようである。
- ・7月20日現在の幼穂長は、54.8mm（平年差+11.7mm）となっており、ほとんどの圃場で減数分裂期に達し、平年に比べて2日程度早まっている。
- ・出穂期は、8月3日頃（平年は8月5日）になる見込みである。



- ・草丈が70.9cm(平年比99%)，1㎡当たりの茎数が500本(平年比96%)，葉数が11.9枚(平年並)であった。
- ・葉色は，暦日で平年及び前年に比べてやや濃い圃場が多い。

品種別生育状況(7月20日現在，県生育調査圃)

県全体

県全体	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値			幼穂長(mm)		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/㎡)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)						
	70.9	101	99	500	97	96	11.9	▲0.3	0.0	35.1	2.0	1.0	54.8	▲35.2	11.7

品種別

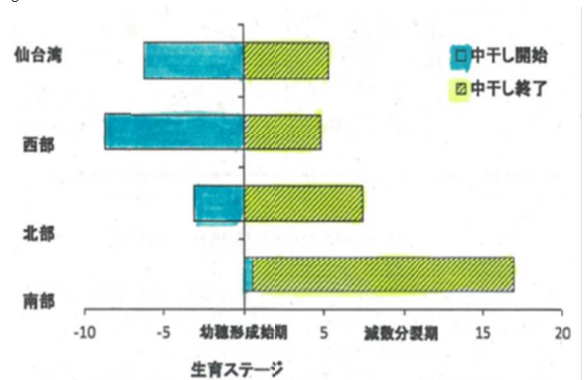
品種別	草丈			茎数			葉数			葉緑素計(GM)値			幼穂長(mm)		
	本年	前年比	平年比	本年	前年比	平年比	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差	本年	前年差	平年差
	(cm)	(%)	(%)	(本/㎡)	(%)	(%)	(枚)	(枚)	(枚)						
ひとめぼれ	70.6	100	99	475	94	94	11.9	▲0.3	0.1	35.3	1.7	1.0	60.1	▲35.5	14.6
ササニシキ	70.2	104	100	570	104	103	12.0	▲0.2	0.1	33.6	1.8	0.3	43.0	▲28.5	8.3

3 今後の管理

(1) 水管理

- ・県内の圃場を見ると幼穂発育期間にもかかわらず，水のない圃場も見受けられるの，品質維持や収量確保のため，圃場を良く見回り，湛水すること。

- ・昨年の例を見ると生育ステージに合わない中干しで品質低下が見られたので，幼穂の発育を良く観察して管理する。(減数分裂期 3cm～12cm)



(2) いもち病に注意

- ・病害虫防除所の感染好適日が日々更新されるので注視する。(1週間程度で葉に病斑)
- ・ここ数日，適度な温度と湿度が続く見込みで，発生しやすく，下葉に注意して圃場を見回る。
- ・葉色の濃い部分で葉いもちの発生が確認されており，病班が多い場合は茎葉散布剤で防除する。
- ・減分期追肥の時期であるが，追肥により葉色が濃くなり，いもちの発病に注意する。

【いもちの発病：平均気温が20～25℃，曇りや雨の日が多いことが好適】

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	桃生	大衡	鹿島台	東松島	石巻	女川	新川	塩釜	江ノ島	仙台	名取	白石	蔵王	亘理	丸森
7/9	○	○	○	○	●	○	●	●	●	●	●	●	○	○	●	○	●	-	△	○	●	●
7/10	-	-	-	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/13	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/14	-	●	●	●	●	●	-	●	●	-	●	●	●	●	●	-	●	●	-	●	-	-
7/15	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●
7/16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/17	-	-	●	●	-	-	△	-	●	-	-	-	-	●	-	-	-	-	-	●	●	-

●感染好適条件 ○準感染好適条件

(3) 斑点米カメムシ類の防除

- ・水田畦畔や雑草地の草刈りは、水稻の出穂10日前（出穂期8月3日頃と予想）までに終える。
- ・出穂期以降の防除対策（薬剤防除）は、穂揃期とその7～10日後の2回防除が基本であり、品種や圃場にあわせて防除する。
- ・イヌホタルイやノビエ等が発生した水田で除草ができなかった場合は、1回目の薬剤散布時期を「出穂始から穂揃期」に早めることが有効である。

【参考：病虫害防除所情報より】

※イヌホタルイが㎡当り16～28株あると、2等に落等する確率は50%～60%である。



イヌホタルイ発生量に基づく斑点米被害リスク

6月下旬の 株数/㎡	2等以下に落等する確率	巡回調査で 該当したほ場数
0～1	0～30%	41地点
1～6	30%～40%	5地点
6～16	40%～50%	7地点
16～28	50%～60%	4地点
28～42	60%～70%	4地点
42～61	70%～80%	1地点
61～90	80%～90%	3地点
90～112	90%～94%	1地点
112～	94%～	4地点

◆病虫害防除所の巡回調査（7月11日～13日）では、牧草地・畦畔等の斑点米カメムシの発生地点率は89.3%で平年より高く、すくい取りの頭数は134頭で平年並みだった。

